

Management Club Report

Jun.2004/Vol.18

Monthly Opinion チェンジリーダーの出現

歯科医院の新規開業は年々困難さを増しているとは一般的には考えられていますが、時代によって困難さにも違いが存在するように思えます。ある時期には必ずしも困難さを伴わず、むしろ新規開業が既存開業医を凌駕するようなこともありました。またここ数年は既存医の攻勢が活性化し、新規開業を圧迫し始めています。チェンジリーダーとも言うべきニューパワーの出現です。新規開業件数や開業成否の趨勢は、その時代時代の社会情勢や歯科界全般の方向感といったものを色濃く反映しています。新しい時代にどう対応して行くか、これからの歯科医院経営を考えるために、まず過去20年における歯科医院の新規開業動向を振り返り、現在の歯科医院経営環境について分析してみたいと思います。

新規開業と分院開設ラッシュ時代

いわゆる“新興歯科大学”卒業生の開業が始まった昭和55年(1980年)前後から歯科界は過当競争の時代に突入することになりますが、競争激化の要因を作ったのは何も新規開業医による開設ラッシュばかりではありません。当時はまだまだ歯科医院の不足する地域の多かった時代で、開業初日から30人や40人の新患が列をなすということも珍しいことではなく、そのような“好立地”を求めて既存医も競って分院の開設に走ったことがもう一つの大きな要因でもあったのです。

《35年間の歯科医院数——5年毎の推移》

元号	西暦	歯科診療施設数	5年間の増加件数	年平均増加件数
昭和40年	1965年	28,602		
45年	1970年	29,911	1,309	262
50年	1975年	32,565	2,654	531
55年	1980年	38,834	6,269	1,254
60年	1985年	45,540	6,706	1,341
平成2年	1990年	52,216	6,676	1,336
7年	1995年	58,407	6,191	1,238
12年	2000年	63,000	4,593	919